

平成 18 年度第 1 回 科学計測専門部会 議事録

(通算第 12 回)

日時：2006 年 6 月 12 日(月) PM13:30 ~ 17:00

場所：海洋研究開発機構 東京事務所 大会議室

出席者(敬称略)

科学計測専門部会：池原 実(高知大学海洋コア総合研究センター), 岩井
雅夫(高知大学), 小田啓邦(産業技術総合研究所), 木村浩之(静
岡大学), 成瀬 元(京都大学), 増田幸治(産業技術総合研究所)

STP 委員：岡田 誠(茨城大学), 笠原順三(日本大陸棚調査), 坂本竜彦
(JAMSTEC), 布浦拓郎(JAMSTEC), 鈴木紀毅(東北大学)

科学計測専門部会前部会長：村山雅史(高知大学海洋コア総合研究センター)

孔内計測 WG 長：荒木英一郎(JAMSTEC)

IO [JAMSTEC/CDEX]: 伊藤久男, 松田繁美, 杉原孝充

事務局：山田泰, 長橋徹

合意事項・提言・実行項目

提言

[科学計測専門部会 提言 0606-1]

科学計測専門部会は、IODP 乗船研究者アンケート調査を継続的に行うと共に、その調査結果を公開していくことを J-DESC に提言する。

[科学計測専門部会 提言 0606-2]

科学計測専門部会は、IODP 乗船研究者アンケートの結果明らかになる船上設備の問題点を IODP-MI へ継続的に報告し、それらの改善を提案するシステムを作るよう J-DESC に提言する。

実行項目

[科学計測専門部会 実行項目 0606-1]

科学計測専門部会は、IODP における孔内温度圧力計測の精度や機器キャリブレーションに関する指針を STP へ報告するために、その原案を作成する。

実行者：孔内計測 WG および STP 委員（笠原）

期限：ヘルシンキ STP（06/6/23）

[科学計測専門部会 実行項目 0606-2]

科学計測専門部会は、Multi-data browsing system の表示・入力・データマ

ネージメントに関して科学者側からの意見を募集し，それらの意見を取りまとめる．

実行者：情報システム WG および非破壊計測 WG

期限：次回計測部会

議事内容

報告事項

出席者およびこの専門部会の紹介（村山）

- 各出席者の専門および役割の自己紹介
- 下部組織 WG（情報システム，孔内計測，非破壊計測など）について紹介

高知コアセンターの組織名称変更に関する報告（村山）

- 高知コアセンター（KCC）が統一名称となる．これは高知コア研究所（JAMSTEC），高知大学海洋コア総合研究センター（高知大学）の統一名称．
- 両組織（高知コア研究所，高知大学海洋コア総合研究センター）の長は別．統一の長は存在しない．
- 組織構成員・グループ分けについて説明があった．

SASの組織名改変に関する報告（長橋）

- SPOC 廃止．SASEC を新設．役割はほぼ同じ．
- 投票権を持つ委員の人数は日・米・欧で 7・7・4 であったのが，3・3・2 になった．議論を迅速に進めるため．
- IODP-MI から 1 名ずつメンバーに入る．
- SASEC（旧 SPOC）がワシントン主導になりつつある．

- SPC の議長も投票権は無いが参加している .
- SAS パネルの任期についてのガイドラインを説明 . これまでの意見を集約し , もう一度各専門部会に周知する .

J-DESC関連 (長橋)

- 科学推進専門部会を発足 . 地球環境変動専門部会 , 地球内部専門部会 , 地下圏微生物専門部会を統合した . 各部会は分科会の形で存続 .
- 5 月 19 日に第一回 IODP 公開報告会を実施 (於 : 東大海洋研講堂) . 今回は Exp. 301, 302, 303 について報告 . 今後は年 2 回の開催を予定 . モラトリアム期間に今後は留意する (Co-chief が承認するひつようがある) .
- まもなく NanTroSEIZE Stage1 および Equatorial Pacific Transect の乗船研究者募集が始まる見込み .

CDEX報告 (黒木)

- 8 月初めから下北半島沖でライザー掘削の試験航海を行う . 現在準備中 .
- 高知コアセンターに ODP 時代のコアを搬入する予定 . 現在準備中でラックを構築中 . 搬入は来年度 . ベーリング海関係の掘削コアを搬入する . 搬入作業中のコアリクエストは受け付けるがサンプル受け取りはかなり遅くなる . サンプル受け取りがどの程度遅れるのかアナウンスが欲しいとの要望があった .

情報システムWG報告 (坂本)

- VCD 問題: アメリカ側の案が公開されたが , まだ tentative な状態である .

- 日本側としては情報システム WG を中心として VCD の lithology classification スキームを作成し，提案する．現在鋭意作成中．現在の課題は粘土の粒度階区分，炭酸塩岩の分類基準，など．
- 国際的にも VCD の lithology classification スキームを作るというチームができた．
- 次回（ヘルシンキ）の STP ではこの lithology classification 問題は決着しない．
- IODP 側に各航海の lithology classification の QA/QC を行う委員会を作っておけばよいのではないかとの意見があった．

IODP乗船者アンケート報告（岩井）

- IODP 開始以降の乗船者にアンケート調査が行われた．航海体験をフィードバックするため．
- アンケート集計結果は添付資料 1 を参照．
- 各種の不満点が明らかになった．船上機材の事前情報の満足度が低下，JR 搭載機器のメンテナンスが良くない，船上作業空間が狭い，陸上施設（コアセンター）の周知が足りない，など．
- 今後，アンケート結果は何らかの形で公開したい． [提言 0606-1](#)
- アンケートによって明らかになった問題点がどのようなパスでフィードバックされ，改善されるのか不明瞭であるという指摘があった．
- 問題点をフィードバックするパスとしては，J-DESCからIODP-MIに改善点を上げていくのが良いのではないかという提言があった． [提言 0606-2](#)

孔内計測WG報告（伊藤）

- 議論されたのは南海トラフでの掘削を例にした構内での温度圧力計測仕様の詳細化についてと、「ちきゅう」での孔内検層について．具体的には [添付資料 2](#) を参照のこと．
- STP Action Item 0601-05 に対応するため議論した．WGはODPにおける過去の事例と成果をまとめて，計測ツールに関して（具体的な仕様というよりも）ガイドラインを整備していくという方針が示された． [実行項目 0606-1](#)
- オペレーション（安全目的）で要求される計測とサイエンスで要求される計測は異なるので（例えば VSP，マッドロギング），研究者側からそういった計測項目に関しては詳細な計測内容を要求していく必要があるのではないかと、との議論が孔内計測 WG では行われている．
- Seismic-core-logging integration は非常に困難な問題だが，VSP はこの問題を考えるためにも重要な計測項目である．「ちきゅう」ではこの VSP を minimum measurement に位置づけたいと STP に提言する予定だが，現状ではすべてのプラットフォームで minimum にするのは困難であり，条件付になるのではないかとの見通しも示された．

非破壊計測WG報告（増田）

- 3 種類の船上活動マニュアル（Standard Operation Procedure, Cook Book (Experimental manual), Technical Note）を CDEX が作成する（2007 年 1 月）．非破壊計測 WG は「Cook Book」に関してコメントを出すことが使命となる．
- 次回開催は 2007 年 1 月．

- IODPにおける物性測定（非破壊計測WG）について議論があった。サンプルの物性値（p波速度（Vp）、s波速度（Vs）、浸透率など）は温度圧力に強く影響されることが示された。この議論結果はSTPで報告される。

IODPポータルデータベースSEDISのOpen hearingについて（松田）

- IODPポータルデータベースSEDISとは何か、その機能について説明があった。
- SEDISの開発スケジュール（Phase I, II, III）について報告があった。
- 6月19日まで意見を募集している。
- CDEXは開発の公募に応募しないとの見通しが示された。

会員提案型経費の対応（池原）

- コア解析スクールを地質学会と同じ時期に開催する。
- 学生・大学院生を対象とした入門編とする。

ACEXサンプル問題（坂本）

- 3つの問題が発生した（サンプルがモラトリアム期間終了後になってから届いた、本来採取してはならないU-channelから勝手にサンプリングした研究者がいた、計測してはならない区間を勝手に計測した研究者がいた）。それぞれルール作りが必要。
- サンプルに関してはコンフリクトを解決する委員会があるが、計測に関しては解決する委員会がないのが問題であるとの指摘があった。

【検討事項】

STP対応（岡田）

- 次回ヘルシンキ STP の Agenda に関する説明があった。
- 日程は 2006 年 6 月 26 - 28 日
- 主な議題は SODV 問題など
- 次回はモンテレー．具体的な日時は未定．
- 前日に STP 委員は集まって打ち合わせをする．

Multi-data browsing systemに関する検討（坂本）

- このシステムは非破壊計測 WG と情報システム WG の両方に関係しており，コアの VCD と非破壊計測データを統合的に表示するデータマネジメントシステムであるとの説明があった。
- US-IO は独自に Corelyzer という名前でこのシステムを開発中。
- CDEX は J-CORES の一機能として Multi-data browsing system を実現したものの，ソフトウェアの開発は進んでいるがハードウェアの開発は進んでいない。
- 「ちきゅう」運行までにハードウェア的なサポート（ディスプレイ・入力装置）が必要となる [実行項目 0606-2](#)